

STEERING WHEEL FOR VEHICLE

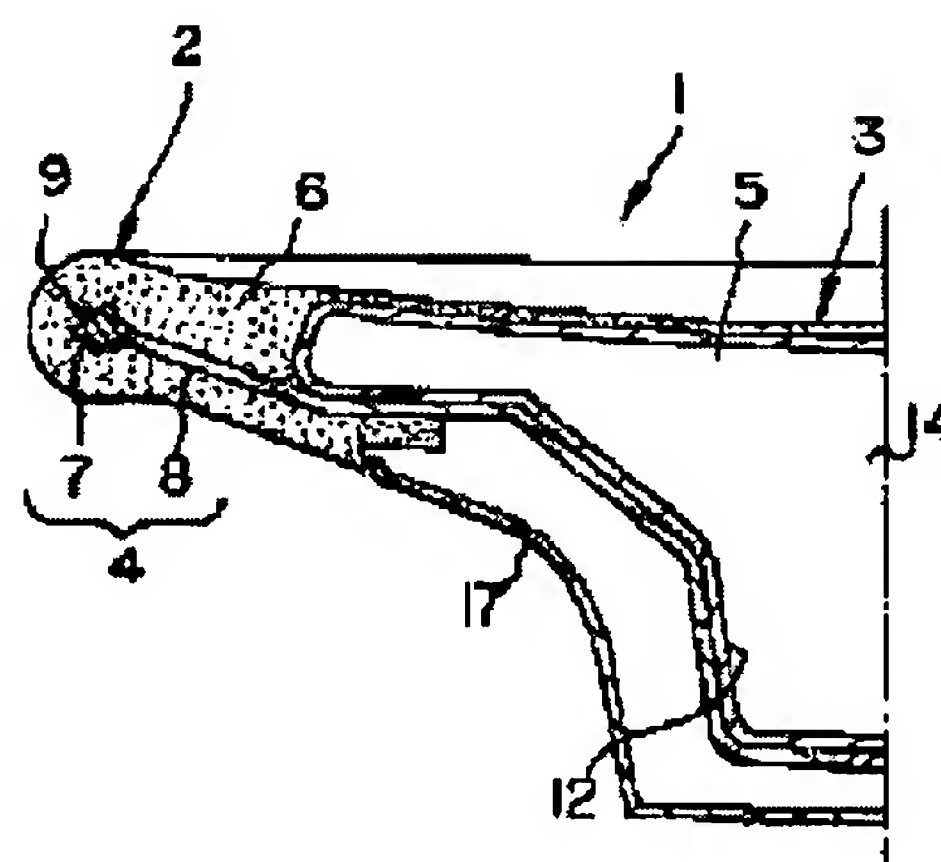
Patent number: JP5131933
Publication date: 1993-05-28
Inventor: YAMASHITA SHIGEHIO
Applicant: MAZDA MOTOR
Classification:
- international: **B60R21/05; B62D1/04; B60R21/04; B62D1/04; (IPC1-7): B60R21/05; B62D1/04**
- european:
Application number: JP19910326387 19911114
Priority number(s): JP19910326387 19911114

[Report a data error here](#)

Abstract of JP5131933

PURPOSE: To eliminate formation of a parting line between a pad part and a ring part, and improve the appearance by disposing a resilient body as a pad main body on a core member for forming a frame, and covering these integrally with a surface member.

CONSTITUTION: A steering wheel 1 is composed of a ring part 2 and a pad part 3. In this case, a wheel main body is formed of a core member 4 as a frame, a hollow body of a resilient body disposed as a pad main body on the core member 4, and a surface member 6 disposed to cover these integrally. The core member 4 is formed of a ring core part 7 and a plural spoke core parts 8. The surface member 6 thus covers the hollow body 5 and the core member 4 integrally with a smooth and flat surface, so that the steering wheel 1 can be formed to be an integral mould for the appearance. Formation of a parting line between the pad part 3 and the ring part 2 can thus be eliminated, thereby the appearance can be improved.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-131933

(43)公開日 平成5年(1993)5月28日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
B 6 2 D 1/04		9142-3D		
B 6 0 R 21/05		2105-3D		

審査請求 未請求 請求項の数2(全4頁)

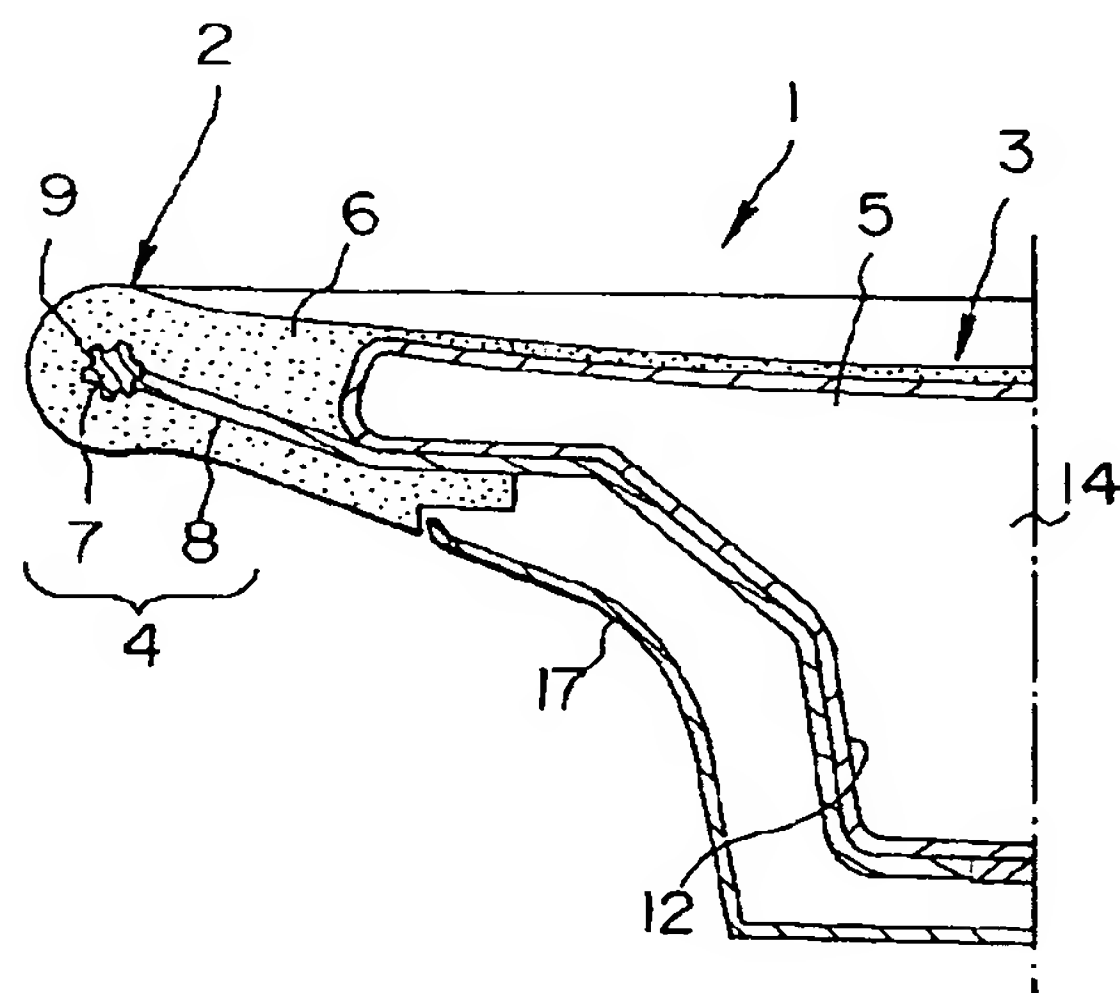
(21)出願番号	特願平3-326387	(71)出願人	000003137 マツダ株式会社 広島県安芸郡府中町新地3番1号
(22)出願日	平成3年(1991)11月14日	(72)発明者	山下 成弘 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
		(74)代理人	弁理士 村田 実 (外1名)

(54)【発明の名称】 車両のステアリングホイール

(57)【要約】

【目的】 パッド部とリング部との分割ラインが形成されないステアリングホイールを提供する。

【構成】 骨組を形成する芯材4をリング芯部7とスポーク芯部8とで形成し、その芯材4上にパッド本体として中空体5を配設し、その中空体5と前記芯材4とを表皮6で一体として覆う。



の下端開口は、その上端開口側から、ステアリングシャフトを固定するための固定具（例えばナット）を用いることを可能とするため、前記ステアリングシャフト取付用孔11に臨み、その上端開口には、図3に示すように、ホーンボタン15が配設されている。中空部14は、上記貫通孔13の周囲に位置するように形成されており、その中空部14は、中空体5が衝撃吸収機能を発揮するために、中空体5の変形空間を確保している。

【0009】前記表皮6は、図1～図3に示すように、表皮成形により、前記中空体5及び芯材4を覆って、ステアリングホイール1の外形を形成している。この表皮6は、中空体5に対しては表面側を覆って前記パッド部3を形成し、リング芯部7及びスポーク芯部8に対しては、図2に示すように肉厚を比較的厚く覆って前記リング部2を形成しており、該表皮6は、パッド部3とリング部2との間を滑らかな平面をなして連続的に跨いでいる。尚、図2、図3中、17は、P-PR等の熱可塑性樹脂からなるコアカバーである。

【0010】したがって、上記ステアリングホイール1においては、表皮6が、滑らかな平面をもって、中空体5と芯材4とを一体として覆うことから、ステアリングホイール1を、外観上、一体形成物として形成することができることになり、パッド部3とリング部2との間に分割ラインが形成されないようにすることができることになる。しかも、この場合、パッド部3の内部には中空体5が配設されていることから、その中空体5によって衝撃吸収機能を確保することができることになる。また、表皮6で、中空体5と芯材4とを一体として覆うことから、該表皮6が、ステアリングホイール1のパッド部3とリング部2とを一体的に連結することになる。このため、パッド部3とリング部2とを連結するボルト等の部品を省くことができ、これに伴って、作業工数も減らすことができることになる。さらに、表皮6が、中空

体5と芯材4とを一体として覆うことから、パッド部3及びリング部2に対する表皮成形が同時に行なわれることになり、表皮成形の加工工数を減らすことができることになる。

【0011】以上実施例について説明したが本発明にあつては、次のようなものを包含する。

- ①中空体5の中空部14にエアバック装置を配設すること。
- ②弾性体としてスポンジ等のクッション材を用いること。

【0012】

【発明の効果】本発明は以上述べたように、パッド部に衝撃吸収機能を持たせつつ、パッド部とリング部との間に分割ラインが形成されないステアリングホイールを提供できる。また、ステアリングホイールのパッド部とリング部とを連結するボルト等の部品をを省くことができ、これに伴って、作業工数も減らすことができる。さらに、表皮成形の加工工数を減らすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例に係るステアリングホイールを示す平面図である。

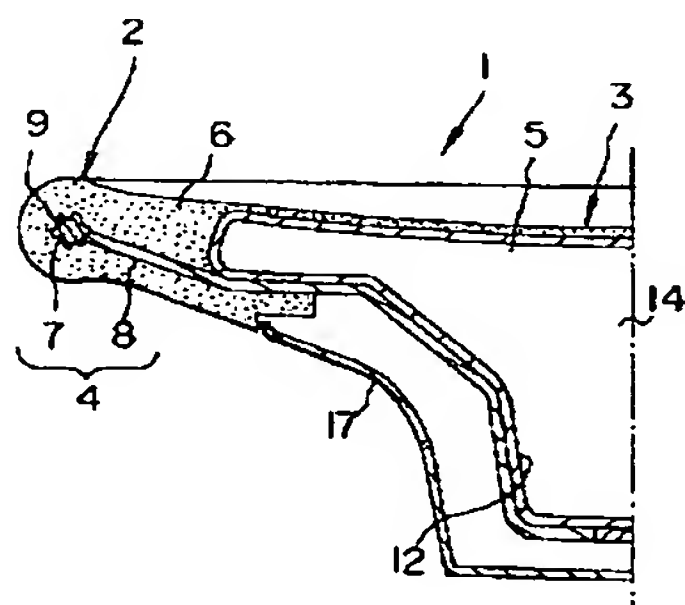
【図2】図1のA-A線拡大断面図である。

【図3】図1のB-B線拡大断面図である。

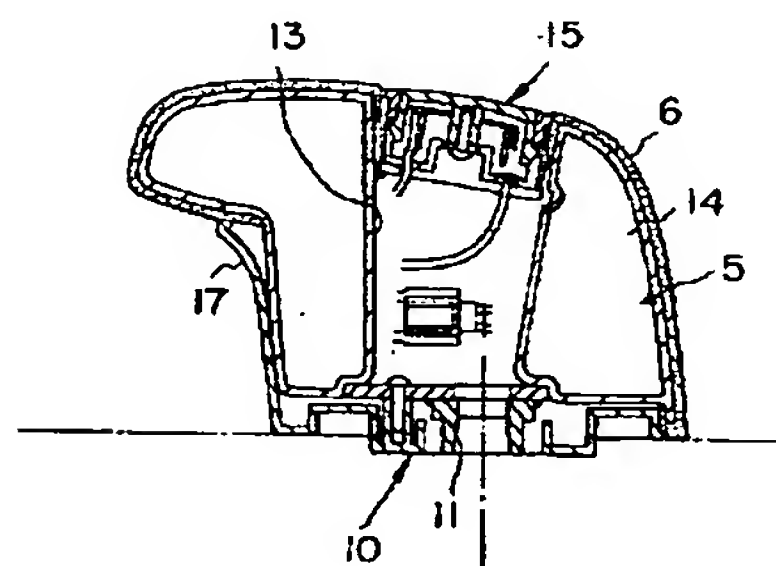
【符号の説明】

- 1 ステアリングホイール
- 4 芯材
- 5 中空体
- 6 表皮
- 11 ステアリングシャフト取付用孔
- 13 貫通孔
- 14 中空部
- 15 ホーンボタン

【図2】



【図3】



【図1】

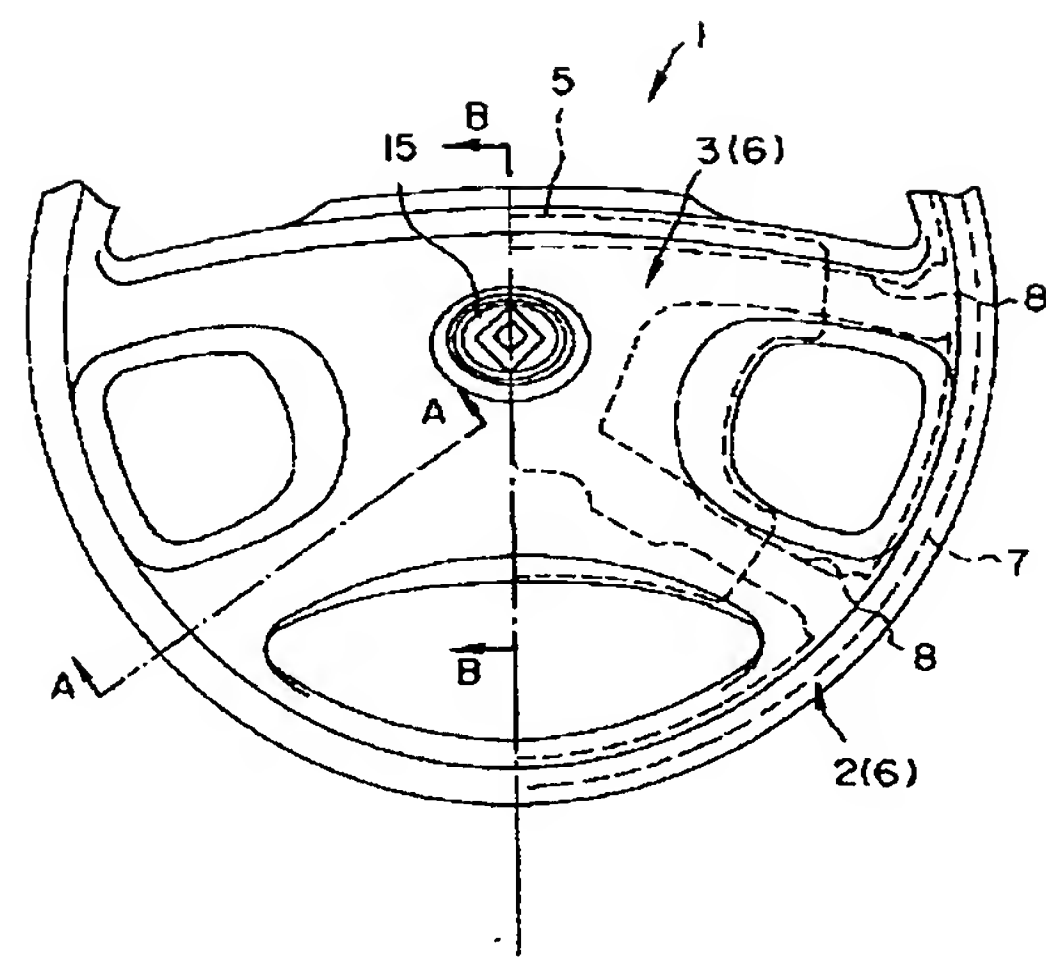


図1は、本発明の実施形態の一例を示す。図1は、本発明の実施形態の一例を示す。図1は、本発明の実施形態の一例を示す。